



# 東京多摩プロバスニュース

第 37 号

■事務局：〒206-0034 東京都多摩市鶴牧 5-29-10 平田方 ■編集・発行：編集委員会 2011.7.6  
■電話・FAX (042)338-7022 ■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com>

## 知恵と経験を生かし、地域社会に発信しよう

### 第 83 回 定例会

日 時：平成 23 年 5 月 11 日(水)午後 1 時 30 分より  
場 所：閑戸公民館第 2 学習室  
出席者：28 名(会員数 36 名)

### 理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする

### 第 84 回 定例会

日 時：平成 23 年 6 月 1 日(水)午後 1 時 30 分より  
場 所：閑戸公民館第 2 学習室  
出席者：26 名(会員数 36 名)

◇◇◇ ごあいさつ ◇◇◇

### 私のプロバスライフ

私がプロバスクラブに入会したのは平成 16 年 7 月（当時 79 歳）でした。

その頃、私は 60 年近いサラリーマン生活に一旦終止符を打ち、これから迎える 80 歳代をどう生きるべきか——悩んでいたところでした。そんな折、偶然に近いようなご縁で当クラブに入会を許されたのです。その後の 7 年間、プロバスは私に大きな希望と刺激を与え、得たものは予想をはるかに上回るものでした。

これまでゼロに近かった地元との接点が少しづつ広がってゆく喜び、未経験の作業を通じて得た新しい IT 知識、年齢差を感じさせない仲間意識と友情、そして会合の後の楽しい小宴等々——プロバスを中心とした新しい生活リズムの充実感に私自身驚いております。

2 年前、「ザ・マジックアワー」という映画（三谷幸喜監督）を見る機会があり、そのタイトルの“マジックアワー”という言葉に惹かれていろいろと資料を調べてみました。

それによると、MAGIC HOUR は映画、写真業界の用語であり、「日没時、太陽

が完全に地平線下に沈み切った後、數十分後に突然現れる灼けつくような真紅の残光、その短いながらも最も美しい時間帯を指し、また、それは人生の最も輝く瞬間を意味する」とありました。私も、過去数回マジックアワーらしいシーンを経験しました。それは、夕日の美しさを狙って日没の瞬間を撮り終り、ほっとして帰り支度をしていると突然これまでの色とは違う、焼けるような真紅の空が現れ、大慌てでカメラを準備し直した経験があります。

この資料を読んだ瞬間、私はこの 7 年間のプロバスライフこそ私の 80 余年の生涯の最後を飾る“マジックアワー”であると直感し、これから残された余生をマジックアワーの輝きを消さないよう、充実した“プロバスライフ”で送りたいと思っております。今後ともよろしくお願いする次第です。

（“マジックアワー”についての小文を 5 ページに掲載）



輝く新緑のメタセコイア通り（多摩市）



広報委員長 平田哲郎

## ◇◇◇ 幹事・委員会報告 ◇◇◇

### 1. 幹事報告

#### 1) 横濱プロバス俱楽部との交流会

5月15日～16日の一泊研修旅行の際、15日に横濱プロバス俱楽部と昼食をともにし、交流会を中華街「大新園」で開催しました。

#### 2) 東京多摩ロータリクラブより

「東日本大震災復興チャリティー寄席」と第7回多摩市中学生俳句大会への協力要請がありました。

#### 3) 全日本プロバス協議会立川副会長より

今年になって関東地区に3つのプロバスクラブの誕生を期に3つのグループに分け交流を深めたいとの連絡があり、詳しくは後日案が提示されます。

#### 4) 大阪プロバスクラブより

今年9月12日に10周年記念式典が開催の予定、参加の要請がありました。

### 2. 委員会報告

#### 2・1. 総務委員会

#### 西村政晃委員長

##### 1) 5月度定例会(5月11日) 出席:28名 欠席:8名

会場は閑戸公民館第2学習室。講話:後藤泰久副市長に「多摩市の現状について」と題して詳細な資料をもとにお話いただきました。

##### 2) 6月度定例会(6月1日) 出席:26名 欠席:10名

会場は閑戸公民館第2学習室。卓話:西村政晃会員が「私の山登り五十年」というテーマで故郷・伯耆大山からヒマラヤ登山まで、長い山登りの体験を披露されました。

## ◇◇◇ 講 話 ◇◇◇

平成23年5月11日、第83回定例会において「多摩市の現状について」と題して後藤泰久副市長に講話をいただきました。その要旨を掲載します。(総務委員長 西村政晃文責)

#### 多摩市の現状について

#### 多摩市副市長後藤泰久



1971年(昭和46年)、多摩ニュータウンの入居が始まり、市制を施行し多摩市となって、今年は40周年です。1年間にわたり、多くの記念事業を実施しています。

本年4月に、第五次多摩市総合計画基本構想がスタートしました。今後は基本構想に掲げた将来都市像や目指すまちの姿の実現に向けて、具体的な取り組みの方向性などを記す基本計画を策定していきます。

#### <多摩市の概要について>

総合計画策定のためのポイントをレジュメを使って説明いたします。

- ・日本の総人口の推移:大きく減少すると推計されています。
- ・多摩市の3区分人口の推移:年少(0～14歳)と生産年齢(15～64歳)が減り、老年(65歳以上)が増えると推計されています。

### 2・2. 研修・親睦委員会

#### 関根正敏委員長

##### 1) 5月15日～16日、箱根研修一泊旅行(参加:15名)。

往路、横濱プロバス俱楽部との交流会を開催。中華街での懇親会および横濱プロバス俱楽部の案内による横浜見学を行いました。

##### 2) 6月26日、T I Cの企画する「立川防災館見学および昭和記念公園散策」に3名参加しました。

### 2・3. 地域奉仕委員会

#### 滝川道子委員長

今期の委員会報告も最後となりました。当初の行事予定がすべて終り、5月・6月は委員会としての動きはありませんでした。

皆様の心からのご協力ありがとうございました。

### 2・4 広報委員会

#### 平田哲郎委員長

東京多摩プロバスニュースの第37号の取材、編集の準備に入り、ホームページも5月22日に更新作業を実施しました。

6月末で第7期の任期を終えるに当たって、過去1年間取材・編集にご協力いただいた方々に誌上を借りて厚くお礼を申し上げます。



広報委員会のみなさん

・多摩市の生活環境について調査(市政世論調査、表参照):「住み良さ」の総合評価は肯定的評価が90.1%と極めて高い結果になっています。

- ・充実している市内の公園:公園数は206、総面積は229haと充実しています。
- ・整備された都市基盤(①道路):東京都26市中、道路率は第2位、平均幅員(m)は第1位と高くなっています。
- ・整備された都市基盤(②橋りょう):橋りょう総延長(m)、橋りょう総面積(m<sup>2</sup>)とともに第2位と充実しています。ただし、これは歩行者専用の橋が多いため、維持管理費も必要となってきます。ある面リスクになりかねません。
- ・性質別経費の推移(歳出):扶助費(住民福祉を支える経費)は年を経るごとに増えており、今後も伸びていくことが予想されます。
- ・多摩市の歳入構成の推移:多摩市は大企業が少ないため法人税収が少ないです。今後全体として税収の増加は見込めない状況です。

#### <第五次多摩市総合計画基本構想>

##### ・まちづくりの基本理念

- ① 市民主権による新しい地域社会の創造
- ② 豊かなまちを次代へ継承

## ◇◇◇ 講 話(つづき) ◇◇◇

### ③ 自立的な都市経営

#### ・「将来都市像」

第一次～四次を受けて第五次の「将来都市像」(案)

「みんなが笑顔 いのちにぎわうまち 多摩」

#### 〈多摩市の財政状況(たま広報 平成23年3月5日号)〉

多摩市は財政力指数が1.0を上回っており、健全な財政で、東京26市のうち、地方交付税不交付の7市に含まれています。また、地方債(借入金)は減少してきており、健全です。しかし、これからは「減る税収、増える社会保障経費」という状況と、基金(貯金)残高の取り崩しが増えています。(23年度予算は3月28日成立)

#### 多摩市の現状(第33回市政世論調査より)

##### 生活環境についての調査

###### 【住みよさの総合評価】

多摩市は「住みよい」「どちらかといえば住みよい」と答えた方の割合  
..... 90.1%

###### 【地域環境について】

お住まいの地域環境について、「良い」「どちらかといえば良い」と答えた方が多かった項目

1位 緑の豊かさ	96.4%
2位 日当たり・風通し	90.7%
3位 空気がきれい	88.1%

お住まいの地域環境について、「悪い」「どちらかといえば悪い」と答えた方が多かった項目

1位 交通の便	23.8%
2位 駆音・振動	23.0%
3位 買物の便	22.8%

#### 〈東日本大震災への多摩市の対応について〉

- ・3月11日市議会予算特別委員会で予算案を審議中に大地震発生、即日「震災対策本部」を立ち上げました。
- ・3月11日1,108名の帰宅困難者:公共施設4ヶ所に受け入れ、毛布、食料品などの物資を供給。
- ・被災地からの避難者受け入れ:永山公民館2名。
- ・救援物資受付、被災地届け:655件。
- ・計画停電の実施:鉄道への電力供給を優先することから地域が偏り、市民からの電話が殺到した。
- ・乳児に飲料水を配布:金町浄水場の水道水に放射性ヨウ素が含まれ、乳児の健康を守るために備蓄飲料水を3月24、25日、合計2,252本配布。
- ・公共施設の閉鎖:不測の事態への予防措置と節電の協力のため3月中閉鎖。
- ・義援金の多摩市募金:連休開けに3,019万円に達した。以上のような対応を、市を挙げて取り組みました。

#### 〈震災を踏まえた今後の市政運営について〉

- ・電力不足を考慮し、節電・省エネに取り組みます。
  - ・市民生活への影響への取り組みとして、9月に補正予算を考えています。
  - ・被災者・被災地支援に引き続き取り組みます。
- なお、防災についてメールアドレスを登録しておくと配信サービスが受けられますので、是非ご利用ください。

## ◇◇◇ 卓 話 ◇◇◇

### 私の山登り五十年

#### 〈大学山岳部での6年間〉

私は鳥取県にある別名伯耆富士と呼ばれる大山(1,711m)の山麓に生まれ、毎日その雄姿を見つめながら、登山に夢を馳せる子供時代を過ごしました。

1960年(昭和35年)、念願の千葉大学山岳部に入部。学部を二つ卒業しましたので、6年間、みっちりスポーツ登山を行いました。下界での厳しいトレーニング、山では60Kgの荷物を背負っての縦走、穂高岳・剣岳・北岳・谷川岳などの岩壁での岩登り、冬・春の雪山登山など、より困難を求めるスポーツとしての山登りでした。

雪山登山では、よき先輩・同僚にめぐまれ北アルプスの槍ヶ岳西鎌尾根の左俣岳から派生する硫黄尾根にとりつかれ、1962年積雪期1ヶ月間奥穂高岳へ、1966年厳冬期15日間かけて硫黄尾根から槍ヶ岳登頂など、危険で難しいながらも興味深い登山を経験しました。

#### 〈社会人になっての山登り〉

1966年食品メーカーの中村屋に入社、2年後に中村屋山岳部を創立、30年間山岳部長をつとめながら会社の仲間と富士山・北アルプス・南アルプス・谷川岳などで登山

西村政晃会員



を楽しみました。

途中、1971年には会社を5ヶ月休職して「1971年千葉大学東ネパール学術調査登山隊」に参加。マカルーII峰(7659m)の登山と学術調査を行いました。登山は残念ながら仲間が標高7260m地点で高山病を発症し亡くなつたため登頂なりませんでしたが、学術調査は文部省の科学研究費の助成を受けて植物生態学をはじめとした大部の報告書が刊行されました。

#### 〈日本山岳会入会、活動に参加〉

1972年には(社)日本山岳会へ入会、活動に参加しました。会社の仕事が忙しくなった頃で、青年懇談会の仲間と国内の山登りや韓国山岳会との交流を実施。後には1988年、日本・中国・ネパール三国の世界最高峰エベレスト交叉縦走隊など、もっぱら遠征隊派遣の裏方を務めました。会務は財務、総務の常務理事を12年間務めました。

#### 〈終わりに〉

私の山登りは、ふるさとの大山からはじまって五十年。大学山岳部、勤務先の山岳部、日本山岳会と良い指導者、大勢のかけがえのない仲間たちに恵まれ、充実したものでした。これからも長く元気で楽しみたいと心から念じております。

## ◇◇◇ 一泊研修旅行(横浜・箱根) ◇◇◇

### 一泊研修旅行と「横濱プロバス倶楽部」との 交流 永島仁会員

5月15日～16日にかけ1泊2日の研修旅行を行った。参加者15名うち女性3名で、9時聖蹟桜ヶ丘オーパ横に集合した一行は、貸し切りバスで出発。日曜日ということもあって途中の渋滞もさほどではなく、予定の時刻より早めに横浜桜木町に到着した。

このため「横濱プロバス倶楽部」との懇親を予定した時刻にゆとりが出る。幸い、五月晴れの好天に恵まれていたので、横浜港の一望できる山下公園へ立ち寄った。氷川丸を背景に記念写真撮影、また、庭園のバ



山下公園氷川丸をバックに  
ラはちょうど見ごろでこの上なく鮮やかであった。

「横濱プロバス倶楽部」との待ち合わせの横浜中華街関帝廟通り「大新園」へ。

会長加藤武様、会員委員長中村実様、理事森山功様、幹事荻原信吾様の出迎えで一同着席。参加者全員の紹介があり両会長のご挨拶がなされた。

加藤会長様からは10周年の横濱プロバスの歩みと今後の発展の在り方を簡潔に披露され、今後の提携について関係を密にしたいと抱負を述べられた。

鴻池敬和会長は横浜生まれの横浜育ちであることから、一層親密な交流に深めていきたいとの意向が表明され、お互いに友好姉妹関係に発展させたいと話が盛り上がりを見せ、相互に親善訪問を重ねることで



横濱プロバス倶楽部の皆さんと交流

一致した。

次いで中村実会員委員長から横浜の歴史、見どころなど、特に中華街の生い立ちや現在についてユーモアやジョークを交えたレクチャーアーがあり「大新園」の上海料理を賞味しながら歓談のひと時を過ごした。中華街には天長門、地久門、善隣門、朱雀門の四つの門があり、入る時と出る時にはそれぞれ反対側に出るのが決まりだそうである。また横書きの看板には右から左と、逆の左から右書きの二通りがあるが、前者は台湾系で後者は大陸系だそうである。ところで大新園の前に「天外天」の大きな看板が出ていたが、これはどちらなのかな?

大新園を出て「港の見える丘公園」へ。公園にはバラが咲き誇り大勢の人々が鑑賞していた。横浜学会長中村様のご案内で外人墓地へ。幕末の安政元年に事故死したペリー艦隊の水兵を埋葬したのが始まりだといふ。墓苑内には幕末から明治にかけて日本の近代化に貢献した多くの人物の墓がある。日本初の新橋、桜木町間の鉄道敷設に当たったモレル、航海術のラムゼ



港の見える丘にて

一など有名だ。なかでもポトマック河畔の桜の移植についてスキットモアの貢献が大であったとのことだ。再び港の見える丘公園に戻りご案内をして下さった横濱プロバス倶楽部の役員の方々と再会を約し、別れを惜しみながらバスに乗り込む。

バスは五月晴れに恵まれて、一路箱根小涌谷の金型健保はこね荘へ。新緑に囲まれた立派なホテルである。部屋割に従い旅装を解いてさっそく入湯する。

しばらく休息ののち宴会、宴会場もまことに素晴らしい、壁面には鮒鯉の群游する姿が描かれていて見応えがある。程よく酔いがまわるにつけ、楽しい小話からジョークに始まり、東日本大震災、津波、原子力発電所事故など、被災者に思いを致し、国を思い、政治を憂いて談論風発、ついに話は二次会にいたる。

翌朝、朝食後解散となる。

## ◇◇◇ ハッピー・バースディ ◇◇◇



### 5&6月の誕生日祝い

5月及び6月に、4名の会員が誕生日を迎えられました。

写真左：

左から5月誕生の  
永田宗義会員  
楠 慶二会員

写真右：

左から6月誕生の  
滝川益男会員  
北村克彦会員



## ◇◇◇ マジックアワー ◇◇◇

### “マジックアワー”について

卷頭言で採り上げた“マジックアワー”について私が関心を持った動機とその素晴らしい現象について触れてみたいと思います。私は還暦前後から趣味の写真撮影にのめりこみ、特に朝夕の斜光線のかもしだす魅力と、朝焼け、夕焼けの豪華な美しさに魅せられ、特に信州のホテルからの富士、アルプスを背景にした朝夕の撮影には心を惹かれたものです。そんな折、“MAGIC HOUR”という言葉に出会い、なんとなく気にかかり調べてみたところ、

「MAGIC HOUR」は写真・映画用語であって、「太陽が地平線に完全に沈んだあと数十分たって、もう一度真紅に輝く素晴らしい現象で、その僅かながらも最も美しい時間帯を指し、また、転じて人生で最も輝く瞬間を意味する」とありました。

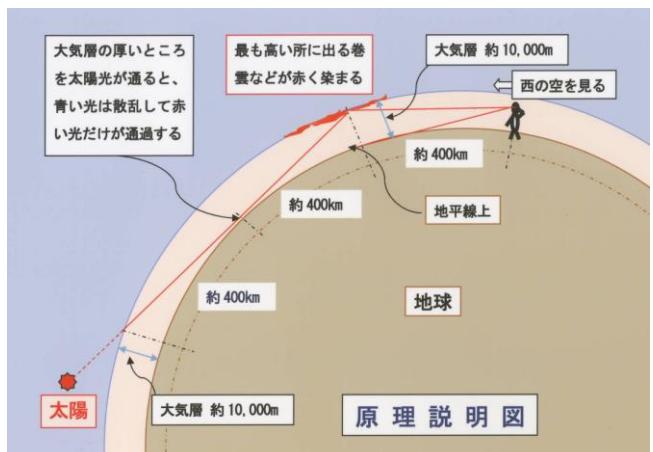
また、写真誌上でこの現象についての説明を発見、それによれば「われわれが、日没時に地平線を眺めるときは400km遠方の高度10,000mの空を眺めているといわれる。そして日没の数十分後、地平線の下に沈んだ太陽光は約1,200kmの厚い大気層を通り抜け、その際散乱し易い青系統の光は消え、透過しやすい赤い光で高度10,000mの雲に到達し、下から雲を真紅に光らせる現象を指す」とありました。

この現象は、大気中の水分、太陽の高さ、雲の種類と高

さなどの多くの気象条件に左右され、発生を予測するのはなかなか難しいようです。

下の写真は6月中旬の日没時、家内の「夕焼けが素晴らしいわよ！」の声に慌てて飛び出し、近くの陸橋の上から撮った一枚です。

このように、一旦沈んだ日没から夜のとぼりに包まれるまでの一瞬の時間帯を飾る MAGIC HOUR の豪華な贈り物を見る度に、私の後半生に素敵な輝きを贈ってくれた“プロバスライフ”を連想し、あらためて感謝するものです。



マジックアワーの大夕焼け（多摩市鶴牧）

## ◇◇◇ 世界のプロバス事情(Ⅲ-3) ◇◇◇

### 「トゥイッケナム・プロバスクラブ」（英国）

滝川益男会員

トゥイッケナムはロンドンの郊外に位置し、「ラグビーの聖地」として知られる。この地にはラグビー・イングランド代表のホームグラウンドがある（写真左）。



「トゥイッケナムPC」の創立は1977年。あらゆる職業・階層の

会員により構成され、草創メンバーは26名だったが現在は43名の会員が活動している。会場は「フルウェル・ゴルフクラブ」を利用、毎月第二木曜日に定例の昼食会をもつ。昼食会費（コース料理）は14ポンド（約1840円）。

年間の主要イベントは3つで、3月に恒例の「アニユアル・ディナー」（年に一度の夕食会）、人気の高い8月の「レディーズ昼食会」、そして伝統の12月「クリスマス昼食会」と、いずれも夫人同伴・家族同伴で和気藹々の雰囲気のなか開催される。またこのクラブでは、毎月のラッフル（くじ）で集めた寄付金を、地域の各種慈善事業への一助としている。

現理事会の構成は、会長：マイケル・フレーザー、前会長：クリス・スクエアーズ、書記：ポール・カーショウ、会計担当：クリス・スクエアーズ、卓話担当：ジョン・ウィリアムソン、親睦促進委員：クリス・スクエアーズ、ロス・シルバー、メルビン・スクエアーズ。



定例昼食会の会場

### 年間講話スケジュール

「トゥイッケナムPC」の特徴は、充実した講話にある。前年から時間をかけて講話の年間スケジュールを決め、実行している。たとえば今年2011年度のスケジュールは、5月10日「世界一周ヨットの旅」（A・ウェルズ氏）、6月15日「王立救命ボート協会の活動」（C・ブラウン氏）、7月12日「ダイアナ妃の泉を修復」（P・モーポーク氏）、8月9日レディーズ・ランチ「ロンドン塔の宝物」（G・ワイス氏）、9月13日「英國オリンピック協会の活動」（J・ジェイムズ氏）、10月11日「バッキンガム宮殿の廻」（D・チャーチルズ氏）、11月8日「ユトレヒト沖海戦（1916年）」（D・ダッ



ロンドン近郊の見学会

氏）、12月13日クリスマス昼食会（講話者未定）。

なお、同クラブでは研修親睦旅行にも力を入れており、年に数回の小旅行やピクニックを楽しんでいる。最近の旅行先はダブリン、アムステルダムなどの他、今年5月にはロンドン近郊に詩人R・キップリングの館を訪問した。

さてここで、最近の講話を一つ紹介すると（要旨）――。

### 講話「グルカ傭兵に恩給を」——P・バードン大佐

「グルカ兵」とは、山岳戦・白兵戦に長けたネパール人の戦闘集団。英國陸軍の傭兵として約200年間、勇猛果敢に戦った。英國陸軍は1814～16年の「英國・ネパール戦争」で初めて彼らと戦火を交え、その戦闘能力の高さに驚嘆し、畏敬の念を抱いた。戦後、講和条約に基づき彼らを「グルカ兵」として英國陸軍に編入。グルカ兵は英國のため、第一次・第二次大戦を通じてビルマ、アフガン、インド国境、マルタ、キプロス、中国などを転戦し、その勇猛さは敵軍を震撼させた。

グルカ・ライフル隊を率いて第一次大戦を戦ったR・ターナー卿は、彼らの勇敢さを「極寒に耐え、猛暑に耐え、負傷に耐える最も勇敢なる兵士達、最も忠誠なる兵士達」と評した。



身長は約140～150cm

右上の写真は19世紀のグルカ兵で、手にしたスナイドル銃との対比から身長は140～150cmと推測される。英國国防省近くには、過去2世紀にわたりこの国を支えたグルカ兵の栄誉を称える彫像が建っている（写真右）。しかし第一次大戦では200,000人のグルカ志願兵中10%が死傷、第二次大戦では9,000人の戦死兵を出している。



グルカ兵像

### 「グルカ福祉信託基金」

現在のネパールには、昔グルカ兵士として戦った老兵約10,000人が、扶養家族を抱えて極貧にあえいでいる。彼らは第一次・第二次大戦に出征したベテラン兵士だが、恩給を受ける資格をもたない。ネパールは世界最貧国の一。ヒマラヤ山腹は電気も通わず、自然災害や病弊に悩まされる過酷な状況にある。政情も不安定だ。「グルカ福祉信託基金」は40年前、これら軍人恩給のないグルカ兵達に、わずかでも恩給を給付しようとの目的で創設された。この基金を維持するには毎年、寄付金などで4百万ポンドを集める必要がある。

司会のD・ストーリッジ氏は、講師のP・バードン大佐に謝辞を述べ、英國がグルカ戦士に蒙った恩に報いようと、「グルカ福祉信託基金」への寄付を参加会員に呼びかけた。（引用サイト paulkershaw@tvgs.freeserve.co.uk 及び Wikipedia）

## ◆ 国際交流の登山

多摩市には現在 2,300 人余の外国人が暮らしています。その大半が中国・フィリピンなど、登山という文化伝承の無い国の出身です。そこで多摩市国際交流センター(TIC)では、高尾山塊・丹沢山塊・奥多摩など近くにいい山々がひかえる多摩市だけに、外国人に多摩市民と一緒に山登りを楽しんでもらおうと、昨年 4月高尾山塊の景信山(かげのぶやま 727m)登山からその試みを実施しました。担当の私は、登山は生まれて初めてという人を対象にしますので、服装・携行品を募集チラシに載せ、安全で楽しく山を登る要点を「てびき」にして配布。これらの内容を説明しながら登山を体験してもらうことにしました。



大山山頂奥の院で登頂記念  
(筆者: 上段右から二人目)  
身の方 3名、韓国出身の方 1名、日本人 10名、合計 14名の参加でした。

小田急線秦野駅からバスでヤビツ峠へ、峠を 10 時 30 分出発。イタツミ尾根の山道には可憐なマメザクラの花、山の斜面にはあちこちに壺形の白い馬酔木(あせび)の花が咲き乱れています。

タガログ語(フィリピン)、朝鮮語(韓国)が入り混じり和気あいあいのうちに 12 時 15 分、全員 1,252m の頂上へ。山頂からは南に相模平野、相模湾、西に丹沢の山なみ、富士山が望め、のんびりとした昼食タイムになりました。

登路を下り、心地よい陽春の山登りを楽しんだ一日となりました。

## ◆ 「原生会絵画展」と私

原生会は多摩市域の 60 歳以上の男性に限った、趣味で絵を画く人達の集まりです。現在の会員数は 14 名で、その内わがプロバスクラブからは岡野、鴻池両会員と私の 3 名が含まれています。春と秋の 2 回、市内の公設ギャラリーで絵画展を開き、他に新年会や一泊の写生会などで親睦を計るのが主な年間行事となっています。

会の歴史は、多摩市が発足した 1971 (S46) 年頃からとのことなので約 30 年の歴史があり、当時とはメンバーが一新しております。岡野さんは、長らく多摩市民美術会の会長をされており、当時から入会されていたので 3 人の中では一番古く、次に鴻池さん、そして私は 4 年前からの会員です。

## 西村政晃会員

この会にはいろいろな魅力あふれる特徴があります。まずは出展作品の画風や表現手法が実際に多彩なことです。具象から抽象・油彩・水彩・パステル画・コラージュから点描・線描等いろいろです。そして会員各人はそれぞれに皆その画風・手法にはこだわりをもって追求しているようです。全員アマチュアでありながら長い間の画歴を誇る人達ばかりです。会には突出した先生格はない代わりに全員がそれぞれに独自の世界を持っています。

岡野さんは、もっぱら水彩でシルクロードをはじめ世界各地での旅絵を、実に軽妙でかつ力強く見事な色彩で表現されます。また四季折々にも美しい自然描写で 8 号以上もの大作をものにされます。原生会以外にも別の企画展などに依頼されて出展されています(下記の記事参照)。

鴻池さんは、主に油絵で風景画を得意とされ、その構図と色彩は他の追随を許さぬ見事な雰囲気を表現されています。一昨年のクラブ発足 5 周年事業での〈多摩の風景展〉で見事に入賞されたことからも明らかです。

さて私はといえば、ご両人とも他の原生会の方ともかなり異なる状況です。絵を描くこと自体は子供の時から大好きで、大人になっても旅では常にスケッチブックを携帯し、写真機代わりに旅絵を楽しんで書いてきました。もう 50 年近くも続いています。

私にとっての絵は、絵画展とは無縁の自分のためだけのものでしたが、原生会に入って少し変わってきました。皆さんに観ていただくためにも真剣に取り組む「諏訪神社獅子舞」(山田正司画)ようになりました。



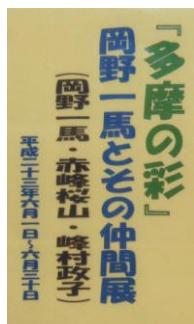
最近では多摩の地元を巡り、上図のような伝統的祭り文化を丁寧に表現して、少しでも多摩地域の理解に役立てたいと心掛けています。地元がくふるさと>になればやはりそれは私自身のためにもなります。

## ◆ 「多摩の彩」

## 岡野一馬会員

さる 6 月 1 日より一ヵ月間にわたり、阪東熙子会員の肝いりでシルバーシティ石神井南館で“岡野一馬とその仲間展”を開催。

この絵画展に併せて 6 月 5 日には、東京コレルリ室内合奏団によるクラシックコンサートを催し、お年寄りに心の安らぎを提供する機会を得た。これらは阪東熙子会員の長年にわたるボランティア活動の一環で行われた。



絵画展の看板

**池田満寿夫の茶碗**

池田満寿夫は若い頃から好きな銅版画家である。ビエンナーレでグランプリを取り、颯爽と画壇に現れた。他の作家にない、明るい色彩と斬新な手法、奔放なイメージの表出に僕は魅了された。作品を銀座の画廊で買ったりもした。画家の傍ら小説を書き出し、「エーゲ海に捧ぐ」で芥川賞を受賞し、そして映画監督。そして陶芸家。女性遍歴も作品同様奔放だった。25年前、池田の彼女の知人だった友人の誘いで作陶展を観に行った折、この茶碗を買った。美術出版社刊、23万円の茶碗付50部限定本「池田満寿夫の陶芸Ⅱ」だった。祖父が愛用していた大桶焼の茶碗と並べてみると断然面白い茶碗である。この本で池田は「私の陶芸は伝統の否定からはじまつた——素人の作である——素人の共通点は技術の未熟さである——統一性がない。重すぎる。厚すぎる。ゆがみすぎている。釉薬の使い方がめちゃめちゃである——私はそれらの欠点を全部承知しているのである」と大見得をきっている。

僕は七十の手習いで「茶の湯」を始めた。たまに飾って眺めていたこの茶碗を、最近は使ってみる。あの大きな手から生まれた、手捻りの奔放な形、胴の下辺は女性のお尻と見えなくもない大きな窪み、口造りはうねる。底が厚く茶碗としては浅くて重い（普通の倍はある）。

## ◇◇◇東京多摩プロバスソング◇◇◇

作詞 池田 寛  
作曲 中村 昭夫

聖の桜仰ぎつつ 多摩の流れに身を清めて  
緑の杜に囲まれた 我が故郷の行く末と  
社会奉仕に力をそそぐ  
集う我等プロバスクラブ  
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

富士を仰ぎつつ 心の業を磨き合い  
豊かな知識身につけて 次の世代の若人の  
教え導く糧となる  
集う我等プロバスクラブ  
プロバス プロバス 多摩プロバスクラブ

## ◆◆訂正のお願い◆◆

2011.5.11 発行の本誌第36号3ページ左段下から7行目；誤「エベーター」⇒正「エレベーター」、5ページ右段下から13行目；誤「市局長」⇒正「支局長」に謹んで訂正致します。

**増山敏夫会員**

池田満寿夫の茶碗

釉薬は織部緑と金泥が大胆に掛けられている。茶を点てるとき浅くて点て難い。大きな窪みの部分を正面と見立てるとき飲み口が定まらない。

しかし茶が入るとお尻の跡が浮いているようで面白い。こんな茶碗は見たことがない。池田は「私の茶碗」という一文で「創造性と用の美の追求には茶碗が一番いい——伝統と遊ぶ心は楽しい」と語っている。確かに遊び心が伝わってくる。古田織部の頃の武人の気風に触れるようで楽しい。何とも不思議な茶碗である。茶碗と問答をしながら飲み口を求めてひとまわりする。僕は池田の術中に嵌っていることに気が付かない——。

## ◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

早や夏至も過ぎ梅雨明けが待たれる頃となりました。

今号は感動的な記事が多く充実した内容になりましたことに、寄稿頂いた方々に感謝申し上げる次第です。○平田広報委員長の巻頭言の“プロバスライフ”が80数年の生涯を飾るに相応しいマジックアワーに寄せられた思いや、西村政見会員の卓話では少年時代の山への憧れが、素晴らしい山男たちの絆を築き上げられたことに深い感銘を覚えます。

○多摩市副市長後藤泰久様の講話で『第五次総合計画基本構想』のご紹介を頂き、今後の私達の活動に示唆を与えて頂きました。

○永島会員の一泊研修旅行記では、『横濱プロバス俱楽部』への訪問が、今後の双方の活発な交流の切っ掛けとなることを期待するものです。また、滝川益男会員の「世界のプロバス事情」では、英国の優雅なプロバスライフを垣間見た思いがします。

○「会員の活動」では、西村会員の「多摩市国際交流センター」、山田正司会員の「原生会」で、各位の得意分野で活動されておられ、その素晴らしいに心打たれます。

○増山敏夫会員の「池田満寿夫の茶碗」は軽妙洒脱な筆致で紹介頂き、また、その茶碗の風合いが写真に現れて素晴らしい雰囲気を醸し出しています。

(登坂記)